

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成17年7月解析分)

1 疾患別定点情報

定点把握(週報)五類感染症 平成17年6月分(平成17年5月30日~7月3日:5週間分)

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	218	0.36	0.01	↓	12	ヘルパンギーナ	136	0.36	2.35	↑
2	RSウイルス感染症	4	0.01			13	麻疹	0	0.00	0.17	
3	咽頭結膜熱	198	0.53	0.38	↗	14	流行性耳下腺炎	946	2.52	1.02	↗
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	407	1.09	1.11	↗	15	急性出血性結膜炎	1	0.01	0.05	
5	感染性胃腸炎	1,680	4.48	3.70	↗	16	流行性角結膜炎	111	1.11	1.21	↗
6	水痘	720	1.92	1.68	↗	17	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.01	
7	手足口病	1,765	4.71	2.61	↑	18	無菌性髄膜炎	25	0.24	0.25	↑
8	伝染性紅斑	115	0.31	0.43	↑	19	マイコプラズマ肺炎	15	0.14	0.13	↗
9	突発性発しん	304	0.81	0.90	↗	20	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	
10	百日咳	23	0.06	0.03	↑	21	成人麻疹	0	0.00	0.00	
11	風しん	4	0.01	0.04							

急増減	増減	微増減	横ばい
↑	↗	↗	↗
↓	↘	↘	
前月と比較しておおむね1:2以上の増減	前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減	前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減	殆ど増減なし(発生件数少数のものを含む)

定点について

定点情報は、定点把握対象の五類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について、県内188の定点医療機関からの報告を集計して作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾患No.	1	1~14	15,16	22~25	17~21,26~28	
定点数	45	75	20	27	21	188

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
22	性器クラミジア感染症	48	1.78	2.50	↗	26	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	103	4.90	6.07	↗
23	性器ヘルペスウイルス感染症	23	0.85	0.70	↗	27	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	53	2.52	2.33	↗
24	尖圭コンジローマ	10	0.37	0.57	↘	28	薬剤耐性緑膿菌感染症	8	0.38	0.23	
25	淋菌感染症	14	0.52	0.94	↑	「過去5年平均」：過去5年間の同時期平均（定点当り）					

インフルエンザ	急減（5月1,345件 6月218件）
手足口病	急増（5月440件 6月1,765件）
伝染性紅斑	急増（5月42件 6月115件）
百日咳	急増（5月4件 6月23件）
ヘルパンギーナ	急増（5月21件 6月136件）
無菌性髄膜炎	急増（5月6件 6月25件）
淋菌感染症	急増（5月5件 6月14件）

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

一類感染症	発生なし
二類感染症	発生なし
三類感染症	5件発生【腸管出血性大腸菌感染症 { O157 4件（東広島地域保健所管内1件、呉市保健所管内1件、広島市保健所管内1件、福山市保健所管内1件） O26 1件（福山市保健所管内） }】
四類感染症	1件発生【レジオネラ症1件（呉市保健所管内）】
全数把握五類感染症	5件発生【後天性免疫不全症候群2件（広島市保健所管内） 急性脳炎1件（広島市保健所管内） アメーバ赤痢1件（備北地域保健所管内） C型肝炎1件（呉市保健所管内）】

3 一般情報

手足口病

手足口病は5月が440件であったが、6月は1,765件と定点あたりでも4.71と急増している。第23週（6/6～6/12）ごろから増加が目立つようになった。

また、保健所管内別でみると、広島市保健所管内、芸北地域保健所管内、広島地域保健所管内で患者の発生が多い。

- ・好発年齢.....患者の年齢は2歳以下がおおよそ半数を占め、5歳以下が80%を越える。
- ・好発時期.....流行のピークは夏
- ・病原体.....エンテロウイルス（コクサッキーA16，エンテロウイルス71など）
- ・潜伏期間.....おおよそ3～5日
- ・感染経路.....飛沫感染，糞口感染，水疱内容からの直接感染。
症状から回復後も2～4週間程度は、便からウイルスが排出することがあり、感染源となりうる。
- ・症状.....口腔粘膜及び四肢末端に現れる水疱性の発疹が特徴。全ての部位に症状が揃わないことがある。
水疱性の発疹が手足全体、肘や膝あるいは臀部周辺に多数現れることがある。
発症者の1/3に軽度の発熱があるが、高熱が続くことは通常ない。
基本的には数日間のうちに自然治癒する予後良好な疾患である。
- ・予防方法.....排泄物の注意と手洗いの励行が基本となる。
- ・注意事項.....口腔内の症状が強い場合には疼痛のため飲食ができなくなることがあるので、それによる脱水症に注意を要する。
経過中に元気が出ない、頭痛・嘔吐を伴う、高熱を伴う発熱が2日以上続く、などの症状がみられた場合は慎重に対処する必要がある。

咽頭結膜熱（プール熱）

咽頭結膜熱は5月が101件であったが、6月は198件で、第20週（5/16～5/22）ごろから増加しており、今後も増加が懸念される。全国的にも増加傾向にあり、注意が必要である。

- ・好発年齢.....学童，生徒
- ・好発時期.....通常夏季に大きな流行をみる
- ・病原体.....アデノウイルス
- ・潜伏期間.....5～7日
- ・感染経路.....通常は患者からの飛沫感染で主であるが，経結膜や経口的な感染も考えられる。
- ・症状.....発熱，頭痛，食欲不振，全身倦怠感，咽頭炎による咽頭痛，結膜炎に伴う結膜充血，眼痛，流涙等の症状がある。
- ・予防方法.....流水で石鹸を使い手洗いを十分に行い，うがいを励行する。
感染者との密接な接触を避ける。
プールから上がった時は、シャワーを浴び，目をしっかり洗い，うがいをする。
- ・その他.....学校保健法で第2種伝染病に規程されており，主要症状が消失した後2日を経過するまで出席停止とされている。（症状により伝染のおそれがないと認められるときはこの限りでない。）

腸管出血性大腸菌症（O157，O26など）

腸管出血性大腸菌は，夏季に患者の発生数が増えるので，注意が必要である。

【予防方法】

感染経路は経口感染のため，食品の衛生的な取り扱い。調理時の手指や器具の洗浄消毒。
水道水の使用，井戸水を使う場合は，塩素消毒を行なう。
食品は中心部まで75℃で1分以上の加熱を行なう。
食事前や用便後の手指の洗浄・消毒の徹底。
入浴や簡易プールでの感染が疑われた事例が知られている。日頃から入浴などの前はよく体を洗う。

(週報対象 21 疾患，月報対象 7 疾患)について，
して作成しています。

斗定点	STD 定点	基幹定点	合計
, 16	22 ~ 25	17 ~ 21 , 26 ~ 28	
20	27	21	188

11

12

13

